

要 望 書

下北半島縦貫道路の整備促進について

青 森 県 む つ 市
青 森 県 む つ 市 議 会

下北半島縦貫道路の整備促進について

【要旨】

東北縦貫自動車道八戸線に連結し、その機能を最大限発揮する地域高規格道路「下北半島縦貫道路」の早期供用を図るため、地域・拠点の連携を確保しストック効果をより高める「むつ～横浜」間の新規事業化を要望します。

【理由】

東日本大震災では、大規模な損傷がなく震災翌日には緊急車両が通行可能となった高速道路と国道279号は連携して復旧支援等に重要な役割を果たしました。

平成24年2月の暴風雪時にも「下北半島縦貫道路」の供用区間においては、その影響が少なく除雪作業の応援、一般車両の災害回避等に大いに役立ちました。

こうしたことから、平成27年12月に策定した「むつ市国土強靱化地域計画」には災害時の半島孤立化を回避する唯一の事業として「下北半島縦貫道路」の早期整備を位置づけています。

「下北半島縦貫道路」約68kmは、平成7年度に整備着手し、これまで「野辺地バイパス」、「有戸バイパス」、「有戸北バイパス」19.5kmが供用されたところであり、沿線自治体の製造品出荷額や従業員数が増加するなどの「ストック効果」を発現しています。

また、「むつ～横浜」間が連絡されることにより、三次救急医療圏域の拡大や優れた県産品の流通拡大など、さらなる「ストック効果」をもたらします。

しかしながら進捗率は約30%にとどまっており、災害に強く、安全で安心して暮らし人口減少の克服や地方創生を実現する下北半島地域をつくり、さらには国土の強靱化を図るためには「未着手区間の早期整備」が不可欠です。

つきましては、「むつ～横浜」間について新規事業化していただきますようよろしくお願いいたします。

平成28年 月 日

む つ 市 長 宮 下 宗 一 郎

む つ 市 議 会 議 長 浅 利 竹 二 郎



東日本大震災では、陸上自衛隊が、米海軍の軍艦に搭乗し、海上自衛隊大湊基地に到着。隊員約280人、車両約100両が陸路で岩手県などの被災地に向かった。

むつ市国土強靱化地域計画(図解版)



H26.8 むつ市がモデル団体に選定
 H27.12 むつ市国土強靱化地域計画策定
 下北半島縦貫道路が孤立化を回避する唯一の事業

下北半島縦貫道路概要図



H24豪雪では
下北半島が陸の孤島に



大湊海上自衛隊による救出活動
平成24年1月7日

